

作成年月日	平成25年11月19日
作成部局課室名	企画県民部広報課広聴室

## 県民モニター「第3回アンケート調査」結果概要

### 1 調査概要

- (1) 調査テーマ：「芸術文化と国際交流について」
- (2) 調査対象者：県民モニター 2,131人
- (3) 調査期間：平成25年9月26日(木)  
～10月10日(木)[15日間]
- (4) 調査方法：県ホームページ上のアンケートフォームに入力
- (5) 回答者数：1,382人(回答率64.9%)

<参考 - 対象者及び回答者属性>

		対象者	回答者	回答率
総数		2,131	1,382	64.9%
性別	男性	1,113	765	68.7%
	女性	1,018	617	60.6%
年代別	10～20代	166	68	41.0%
	30代	355	185	52.1%
	40代	441	262	59.4%
	50代	360	257	71.4%
	60代	470	362	77.0%
	70代以上	339	248	73.2%

### 2 調査結果の概観

#### (1) 芸術文化について

項目	アンケート結果(主な意見)	結果の考察																																						
日常生活における芸術文化体験や活動の大切さ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>非常に大切である</td> <td>39.4%</td> </tr> <tr> <td>ある程度大切である</td> <td>51.3%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>あまり大切ではない</td> <td>1.1%</td> </tr> <tr> <td>全く大切ではない</td> <td>0.1%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>1.4%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	非常に大切である	39.4%	ある程度大切である	51.3%	どちらともいえない	6.7%	あまり大切ではない	1.1%	全く大切ではない	0.1%	わからない	1.4%	日常生活において芸術文化を大切(「非常に大切」、「ある程度大切」の合計)と感じている人が9割を超えており、認識の高さが伺える。																								
区分	割合																																							
非常に大切である	39.4%																																							
ある程度大切である	51.3%																																							
どちらともいえない	6.7%																																							
あまり大切ではない	1.1%																																							
全く大切ではない	0.1%																																							
わからない	1.4%																																							
この1年間に鑑賞した芸術文化	<p>           鑑賞したことがある：91.4%(全国：62.8%)            鑑賞したことがない：8.6%(全国：36.9%)         </p> <p>《鑑賞対象》</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">割合</th> </tr> <tr> <th>県</th> <th>全国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美術(絵画、彫刻、工芸、写真等)</td> <td>64.0%</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>歴史的な建物や遺跡など文化財</td> <td>53.7%</td> <td>22.6%</td> </tr> <tr> <td>映画(アニメーションを除く)</td> <td>45.5%</td> <td>37.2%</td> </tr> <tr> <td>音楽(コンサート、オペラ等)</td> <td>44.4%</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>生活文化(いけばな等)</td> <td>15.8%</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>演劇(現代劇、人形劇等)</td> <td>15.7%</td> <td>10.5%</td> </tr> <tr> <td>大衆芸能(落語、漫才等)</td> <td>15.1%</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>伝統芸能(能楽、文楽、歌舞伎等)</td> <td>13.4%</td> <td>5.3%</td> </tr> <tr> <td>メディア芸術(アニメ・マンガ・映画等)</td> <td>9.2%</td> <td>2.2%</td> </tr> <tr> <td>舞踊(バレエ、ダンス等)</td> <td>5.2%</td> <td>4.3%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1.3%</td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>全国データ：平成21年11月の内閣府実施の世論調査より。 「生活文化」は調査項目にない。</p>	区分	割合		県	全国	美術(絵画、彫刻、工芸、写真等)	64.0%	24.2%	歴史的な建物や遺跡など文化財	53.7%	22.6%	映画(アニメーションを除く)	45.5%	37.2%	音楽(コンサート、オペラ等)	44.4%	24.2%	生活文化(いけばな等)	15.8%	-	演劇(現代劇、人形劇等)	15.7%	10.5%	大衆芸能(落語、漫才等)	15.1%	4.5%	伝統芸能(能楽、文楽、歌舞伎等)	13.4%	5.3%	メディア芸術(アニメ・マンガ・映画等)	9.2%	2.2%	舞踊(バレエ、ダンス等)	5.2%	4.3%	その他	1.3%	0.2%	<p>1年間に何らかの芸術文化を鑑賞している人が9割を超える高い割合となっている。これは全国と比較しても高い割合である。</p> <p>鑑賞対象としては、「美術」が最も多く、「文化財」、「映画」、「音楽」が上位となっている。なお、「美術」や「文化財」、「音楽」は、全国と比べても特に割合が高い。</p> <p>今後とも拠点となる文化施設の運営や県民芸術劇場の開催など、多彩な芸術文化を身近に親しめる取組を継続する必要がある。</p>
区分	割合																																							
	県	全国																																						
美術(絵画、彫刻、工芸、写真等)	64.0%	24.2%																																						
歴史的な建物や遺跡など文化財	53.7%	22.6%																																						
映画(アニメーションを除く)	45.5%	37.2%																																						
音楽(コンサート、オペラ等)	44.4%	24.2%																																						
生活文化(いけばな等)	15.8%	-																																						
演劇(現代劇、人形劇等)	15.7%	10.5%																																						
大衆芸能(落語、漫才等)	15.1%	4.5%																																						
伝統芸能(能楽、文楽、歌舞伎等)	13.4%	5.3%																																						
メディア芸術(アニメ・マンガ・映画等)	9.2%	2.2%																																						
舞踊(バレエ、ダンス等)	5.2%	4.3%																																						
その他	1.3%	0.2%																																						

この1年間に自ら行った芸術文化活動	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域の伝統芸能や祭りへの参加（支援）</td> <td>18.4%</td> </tr> <tr> <td>音楽、舞踊、華道、茶道、書道などの習い事</td> <td>15.8%</td> </tr> <tr> <td>文学、音楽などの創作</td> <td>12.2%</td> </tr> <tr> <td>文化的行事開催のための支援</td> <td>6.2%</td> </tr> <tr> <td>子どもの芸術文化体験支援</td> <td>5.7%</td> </tr> <tr> <td>歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動</td> <td>5.3%</td> </tr> <tr> <td>文化施設における支援活動</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>特にない</td> <td>56.4%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	地域の伝統芸能や祭りへの参加（支援）	18.4%	音楽、舞踊、華道、茶道、書道などの習い事	15.8%	文学、音楽などの創作	12.2%	文化的行事開催のための支援	6.2%	子どもの芸術文化体験支援	5.7%	歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動	5.3%	文化施設における支援活動	5.0%	特にない	56.4%	<p>自ら行った芸術文化活動としては、「地域の伝統芸能や祭り」や「習い事」、「文学、音楽などの創作」が上位となっている。</p> <p>一方で、「特にない」との回答が5割を超えている。</p> <p>自ら芸術文化活動を行う人をさらに増やすために、ふれあいの祭典・県民文化普及事業・など創作・実践や参加につながるような機会の提供等の環境づくりに取り組んでいく必要がある。</p>
区分	割合																			
地域の伝統芸能や祭りへの参加（支援）	18.4%																			
音楽、舞踊、華道、茶道、書道などの習い事	15.8%																			
文学、音楽などの創作	12.2%																			
文化的行事開催のための支援	6.2%																			
子どもの芸術文化体験支援	5.7%																			
歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動	5.3%																			
文化施設における支援活動	5.0%																			
特にない	56.4%																			
地域の文化的環境を充実させるために必要なもの	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子どもが芸術文化に親しむ機会</td> <td>49.9%</td> </tr> <tr> <td>公演、展覧会、芸術祭等の文化事業</td> <td>47.5%</td> </tr> <tr> <td>地域の伝統芸能や祭り等の継承・保存</td> <td>45.2%</td> </tr> <tr> <td>歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくり</td> <td>44.2%</td> </tr> <tr> <td>文化施設の整備・維持</td> <td>40.2%</td> </tr> <tr> <td>芸術家の積極的活用</td> <td>24.4%</td> </tr> <tr> <td>芸術家や文化団体の活動支援</td> <td>21.4%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	子どもが芸術文化に親しむ機会	49.9%	公演、展覧会、芸術祭等の文化事業	47.5%	地域の伝統芸能や祭り等の継承・保存	45.2%	歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくり	44.2%	文化施設の整備・維持	40.2%	芸術家の積極的活用	24.4%	芸術家や文化団体の活動支援	21.4%	<p>地域の文化的環境を充実させるためには、「子どもが芸術文化に親しむ機会」、「公演等の文化事業」、「地域の伝統芸能や祭り等の継承・保存」、「歴史的な建物などを活かしたまちづくり」が上位にある。</p> <p>このようなソフト面での取組が重要と考える人が多くいる一方、文化施設の整備・維持などのハード面の充実が必要と考える人も約4割いる。</p> <p>今後とも、芸術文化活動の拠点施設の運営を充実するとともに、体験教育や地域の伝統文化の継承等に取り組む必要がある。</p>		
区分	割合																			
子どもが芸術文化に親しむ機会	49.9%																			
公演、展覧会、芸術祭等の文化事業	47.5%																			
地域の伝統芸能や祭り等の継承・保存	45.2%																			
歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくり	44.2%																			
文化施設の整備・維持	40.2%																			
芸術家の積極的活用	24.4%																			
芸術家や文化団体の活動支援	21.4%																			
芸術文化振興への寄付活動を活発化させるための取組	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>寄付金収支の明確化</td> <td>57.1%</td> </tr> <tr> <td>寄付金控除など納税の優遇措置</td> <td>54.1%</td> </tr> <tr> <td>寄付先情報の積極的な提供</td> <td>43.1%</td> </tr> <tr> <td>寄付金使途の選択制</td> <td>36.7%</td> </tr> <tr> <td>寄付先からの特典の充実</td> <td>34.7%</td> </tr> <tr> <td>ｲﾀｰﾈｯﾄ決済など寄付方法の簡便化</td> <td>26.8%</td> </tr> <tr> <td>寄付者への謝意の表し方の工夫</td> <td>20.4%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	割合	寄付金収支の明確化	57.1%	寄付金控除など納税の優遇措置	54.1%	寄付先情報の積極的な提供	43.1%	寄付金使途の選択制	36.7%	寄付先からの特典の充実	34.7%	ｲﾀｰﾈｯﾄ決済など寄付方法の簡便化	26.8%	寄付者への謝意の表し方の工夫	20.4%	<p>「収支の明確化」、「納税の優遇措置」を必要とする人が5割を超え、次いで「寄付先情報の積極的な提供」が続いている。</p> <p>寄付先がどのような団体で、寄付金がどのように使われるのかといった寄付を受ける側からの適切かつ積極的な情報発信や税制上の優遇措置により、個人や企業が芸術文化を支えようとする気運の醸成を図ることが必要である。</p>		
区分	割合																			
寄付金収支の明確化	57.1%																			
寄付金控除など納税の優遇措置	54.1%																			
寄付先情報の積極的な提供	43.1%																			
寄付金使途の選択制	36.7%																			
寄付先からの特典の充実	34.7%																			
ｲﾀｰﾈｯﾄ決済など寄付方法の簡便化	26.8%																			
寄付者への謝意の表し方の工夫	20.4%																			

## (2) 国際交流について

項目	アンケート結果（主な意見）	結果の考察												
国際交流・協力へのかわり	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="387 275 850 309">区 分</th> <th data-bbox="850 275 987 309">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="387 320 850 398">国内での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加</td> <td data-bbox="850 320 987 398">30.8%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 398 850 477">海外での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加</td> <td data-bbox="850 398 987 477">13.6%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 477 850 510">外国人のホームステイなどの受入れ</td> <td data-bbox="850 477 987 510">9.4%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 510 850 589">外国人留学生を含む外国人県民への支援（ボランティア含む）</td> <td data-bbox="850 510 987 589">9.1%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 589 850 667">国際交流・協力にかかわったことがない</td> <td data-bbox="850 589 987 667">56.2%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	割合	国内での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加	30.8%	海外での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加	13.6%	外国人のホームステイなどの受入れ	9.4%	外国人留学生を含む外国人県民への支援（ボランティア含む）	9.1%	国際交流・協力にかかわったことがない	56.2%	<p>「国内での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加」をした人が3割いる一方、「国際交流・協力にかかわったことがない」人が半数以上いる。</p> <p>そのため、身近な国内での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加や情報提供を各市町・国際交流協会・民間団体等と連携しながら促進する必要がある。</p> <p>また、「外国人のホームステイなどの受入れ」や「外国人留学生を含む外国人県民への支援」など積極的な交流を行った人の割合をさらに高め、地域の国際化を促進するために、県民へ情報を提供するなど、普及啓発に取り組む必要がある。</p>
区 分	割合													
国内での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加	30.8%													
海外での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加	13.6%													
外国人のホームステイなどの受入れ	9.4%													
外国人留学生を含む外国人県民への支援（ボランティア含む）	9.1%													
国際交流・協力にかかわったことがない	56.2%													
国際化の進展による地域への影響	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="387 987 850 1021">区 分</th> <th data-bbox="850 987 987 1021">割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="387 1032 850 1111">異なる言葉・文化・習慣を知る機会が増える</td> <td data-bbox="850 1032 987 1111">79.3%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1111 850 1144">地域で外国人との交流ができる</td> <td data-bbox="850 1111 987 1144">60.8%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1144 850 1178">地域経済の維持や発展につながる</td> <td data-bbox="850 1144 987 1178">32.1%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1178 850 1256">習慣や文化の違いからトラブルが起こるおそれがある</td> <td data-bbox="850 1178 987 1256">29.0%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 1256 850 1290">雇用面で摩擦が生じるおそれがある</td> <td data-bbox="850 1256 987 1290">9.6%</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	割合	異なる言葉・文化・習慣を知る機会が増える	79.3%	地域で外国人との交流ができる	60.8%	地域経済の維持や発展につながる	32.1%	習慣や文化の違いからトラブルが起こるおそれがある	29.0%	雇用面で摩擦が生じるおそれがある	9.6%	<p>地域での国際化が進展することについて、「異なる言葉・文化・習慣を知る機会が増える」と考える人が約8割、「地域で外国人との交流ができる」と考える人が約6割と好意的にとらえている人が多数となっている。一方で、「習慣や文化の違いからトラブルが起こるおそれがある」といった不安を感じている人が約3割となっている。</p> <p>地域での国際化をさらに進展させるためには、異なる文化・習慣の相互理解を促進する取組を行い、国際化に対する不安を解消する必要がある。</p>
区 分	割合													
異なる言葉・文化・習慣を知る機会が増える	79.3%													
地域で外国人との交流ができる	60.8%													
地域経済の維持や発展につながる	32.1%													
習慣や文化の違いからトラブルが起こるおそれがある	29.0%													
雇用面で摩擦が生じるおそれがある	9.6%													

多文化共生社会実現のための大切な取組	区 分	割合	<p>多文化共生社会実現に向けて大切な取組として、5割を超える人が、「文化や生活習慣の相互理解の促進」、「日常的なあいさつなど積極的な声かけ」をあげており、お互いの文化や生活習慣を理解しあい、日頃からの交流を積極的に行うことが必要と考えている。</p> <p>また、「外国人県民との交流を目的としたイベントへの参加」、「地域住民との交流や地域活動への外国人県民の参加の呼びかけ」も上位となっている。</p> <p>地域での草の根交流が広がるように、相互理解を推進する意識啓発に取り組む必要がある。</p>
	文化や生活習慣の相互理解の促進	53.7%	
	日常的なあいさつなど積極的な声かけ	50.2%	
	外国人県民との交流を目的としたイベントへの参加	40.2%	
	地域住民との交流や地域活動への外国人県民の参加の呼びかけ	35.2%	
	相互の言語の学習	32.1%	
多文化共生社会実現に向けた行政の取組	区 分	割合	<p>行政に対して、「外国人県民に対する日本語や日本文化の学習の支援」、「外国人県民に対する相談体制や多言語での情報提供」といった、外国人県民の学習や生活を支援する取組を期待する回答が上位を占めている。</p> <p>また、「日本人県民と外国人県民双方に対する意識啓発」といった、お互いの文化や生活習慣を理解する取組も求められている。</p> <p>外国人県民に対する日本語教室の開催支援や相談業務の充実に努めるとともに、NPO・市町との連携により相互理解を推進する意識啓発事業に取り組むなど、外国人が安全で安心して暮らせる環境づくりの充実に引き続き努める必要がある。</p>
	外国人県民に対する日本語や日本文化の学習の支援	45.1%	
	外国人県民に対する相談体制や多言語での情報提供	43.0%	
	日本人県民と外国人県民双方に対する意識啓発	40.4%	
	外国人留学生の受入れや日本人の外国留学の促進	26.9%	
	外国人県民を支援するボランティア、団体等の育成・支援	24.5%	
	友好姉妹州省などとの文化、青少年、スポーツなどの人的交流	23.4%	
	外国人県民への教育、福祉、医療分野の施策の充実	21.8%	

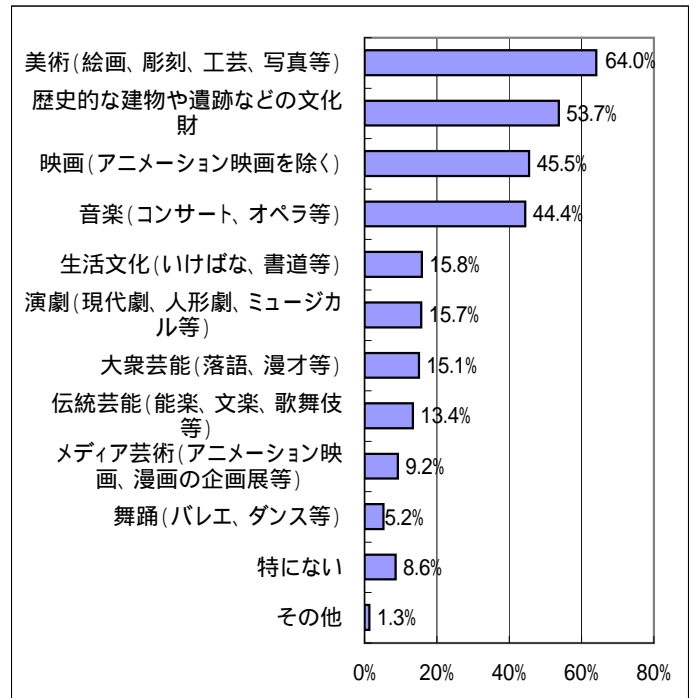
アンケート結果は、今後の芸術文化と国際交流の振興のための具体的な施策立案の基礎資料とする。

### 3 調査結果

#### (1) 芸術文化について

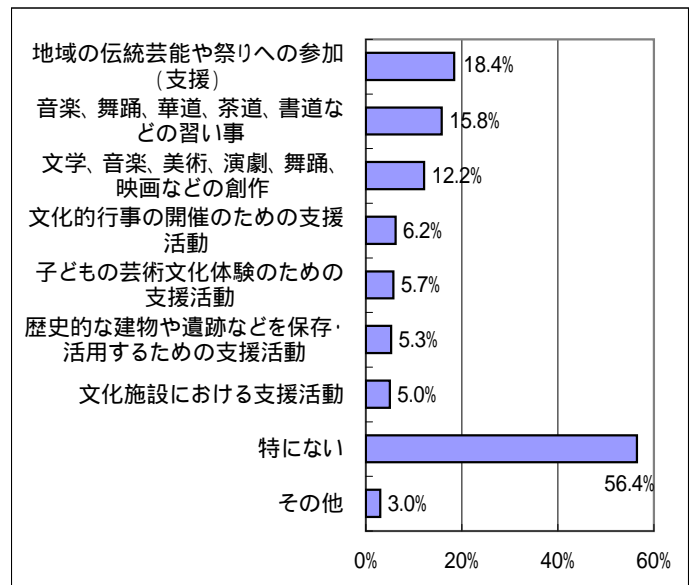
問1 この1年間に、ホール・劇場などに出向いて鑑賞した芸術文化は(いくつでも選択)

(1) 美術(絵画、彫刻、工芸、写真等)	64.0%
(2) 歴史的な建物や遺跡などの文化財	53.7%
(3) 映画(アニメーション映画を除く)	45.5%
(4) 音楽(コンサート、オペラ等)	44.4%
(5) 生活文化(いけばな、書道等)	15.8%
(6) 演劇(現代劇、人形劇、ミュージカル等)	15.7%
(7) 大衆芸能(落語、漫才等)	15.1%
(8) 伝統芸能(能楽、文楽、歌舞伎等)	13.4%
(9) メディア芸術(アニメーション映画、漫画の企画展等)	9.2%
(10) 舞踊(バレエ、ダンス等)	5.2%
(11) 特にない	8.6%
(12) その他	1.3%
・博物館等	4件
など	18件



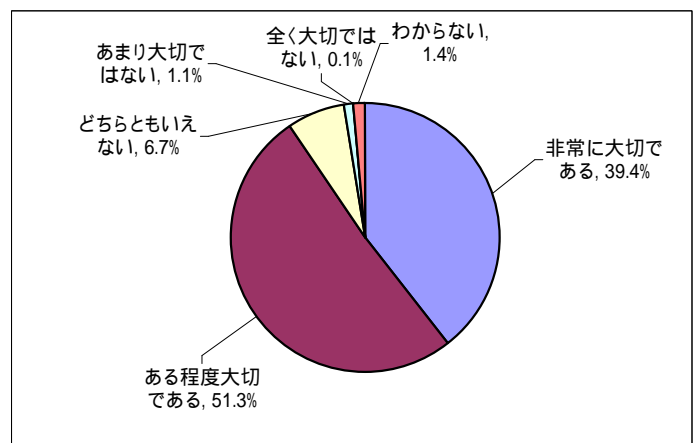
問2 この1年間に、芸術文化に関わる活動をしたことはあるか(いくつでも選択)

(1) 地域の伝統芸能や祭りへの参加(支援)	18.4%
(2) 音楽、舞踊、華道、茶道、書道などの習い事	15.8%
(3) 文学、音楽、美術、演劇、舞踊、映画などの創作	12.2%
(4) 文化的行事の開催のための支援活動	6.2%
(5) 子どもの芸術文化体験のための支援活動	5.7%
(6) 歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動	5.3%
(7) 文化施設における支援活動	5.0%
(8) 特にない	56.4%
(9) その他	3.0%
・芸術文化活動の指導	3件
など	41件



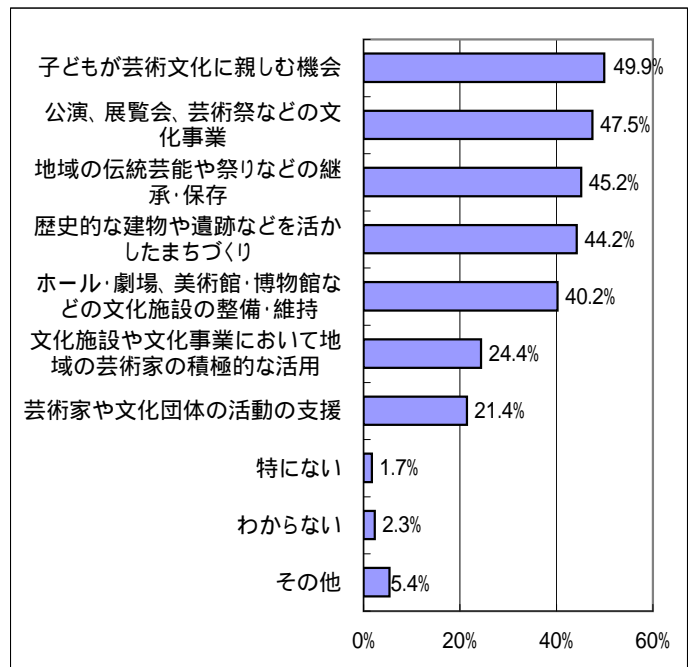
問3 日常生活の中で、芸術文化体験をしたり、自ら活動することについて、どう思うか(1つ選択)

(1) 非常に大切である	39.4%
(2) ある程度大切である	51.3%
(3) どちらともいえない	6.7%
(4) あまり大切ではない	1.1%
(5) 全く大切ではない	0.1%
(6) わからない	1.4%



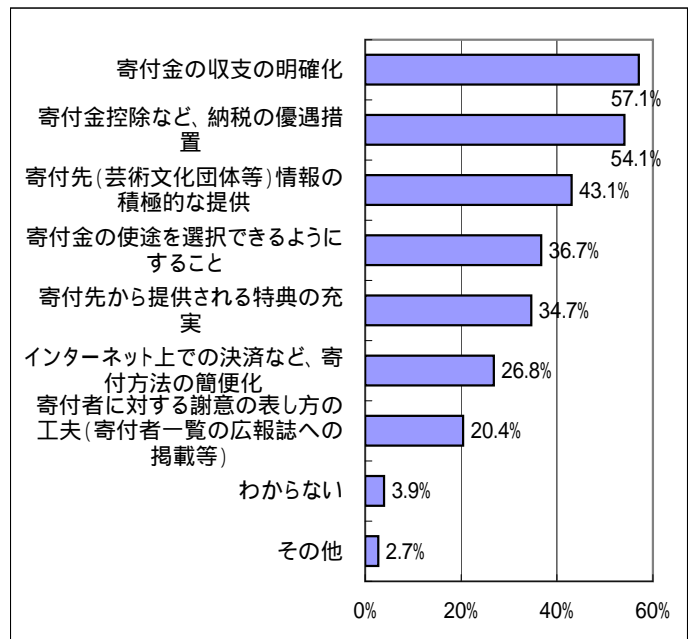
問4 住んでいる地域の文化的環境を充実させるために、何が必要か(いくつでも選択)

(1) 子どもが芸術文化に親しむ機会	49.9%
(2) 公演、展覧会、芸術祭などの文化事業	47.5%
(3) 地域の伝統芸能や祭りなどの継承・保存	45.2%
(4) 歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくり	44.2%
(5) ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の整備・維持	40.2%
(6) 文化施設や文化事業において地域の芸術家の積極的な活用	24.4%
(7) 芸術家や文化団体の活動の支援	21.4%
(8) 特にない	1.7%
(9) わからない	2.3%
(10) その他	5.4%
・文化事業の情報提供・広報	11件
・施設利用料などの低廉化	9件
など	74件



問5 芸術文化振興のため、寄付活動が活発に行われるためには何が必要か(いくつでも選択)

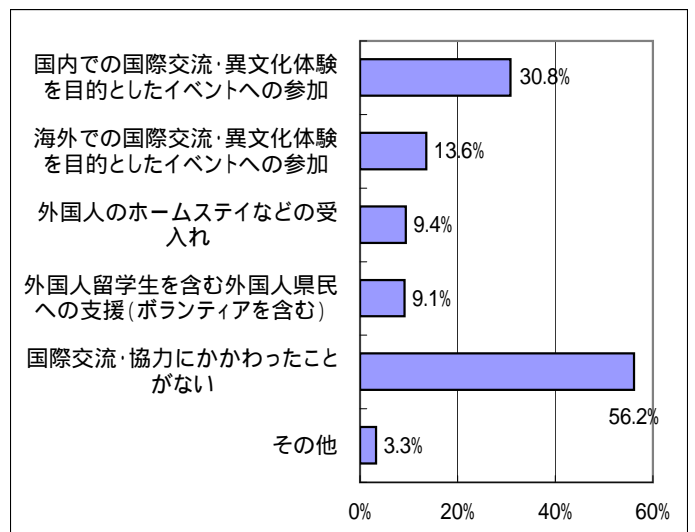
(1) 寄付金の収支の明確化	57.1%
(2) 寄付金控除など、納税の優遇措置	54.1%
(3) 寄付先(芸術文化団体等)情報の積極的な提供	43.1%
(4) 寄付金の用途を選択できるようにすること	36.7%
(5) 寄付先から提供される特典の充実	34.7%
(6) インターネット上での決済など、寄付方法の簡便化	26.8%
(7) 寄付者に対する謝意の表し方の工夫(寄付者一覧の広報誌への掲載等)	20.4%
(8) わからない	3.9%
(9) その他	2.7%
・寄付の意義・効果の十分な説明	7件
・少額寄付ができる仕組みづくり	6件
など	38件



(2) 国際交流について

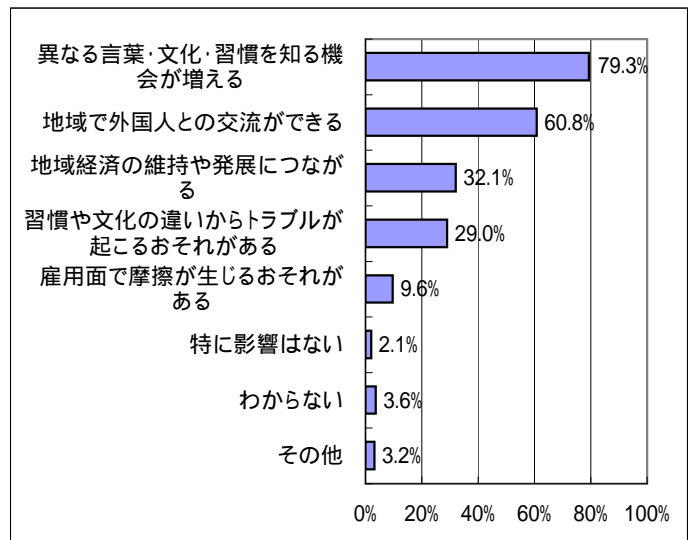
問6 これまで国際交流・協力にかかわったことがあるか(いくつでも選択)

(1) 国内での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加	30.8%
(2) 海外での国際交流・異文化体験を目的としたイベントへの参加	13.6%
(3) 外国人のホームステイなどの受入れ	9.4%
(4) 外国人留学生を含む外国人県民への支援(ボランティアを含む)	9.1%
(5) 国際交流・協力にかかわったことがない	56.2%
(6) その他	3.3%
・身近な外国人との付き合い	6件
・ロータリークラブ等の所属団体の活動を通じての交流	5件
など	45件



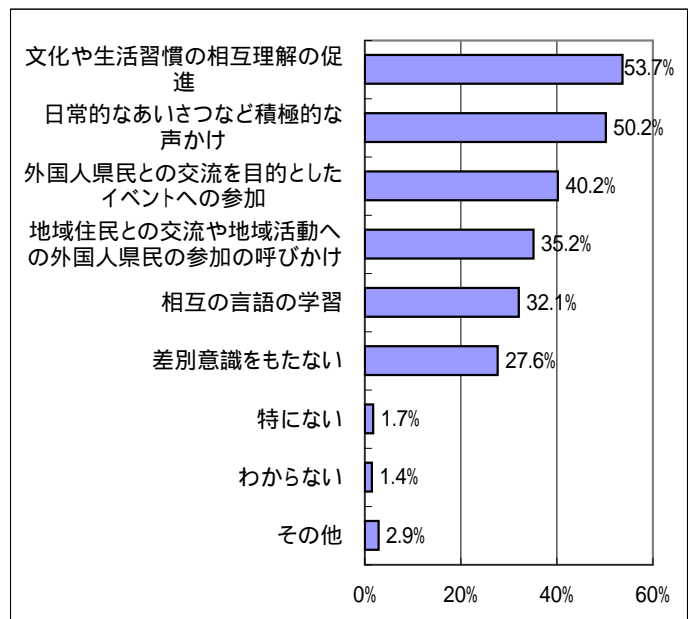
問7 国際化が進むことで、地域にどのような影響があると思うか(3つまで選択)

- (1) 異なる言葉・文化・習慣を知る機会が増える 79.3%
- (2) 地域で外国人との交流ができる 60.8%
- (3) 地域経済の維持や発展につながる 32.1%
- (4) 習慣や文化の違いからトラブルが起こるおそれがある 29.0%
- (5) 雇用面で摩擦が生じるおそれがある 9.6%
- (6) 特に影響はない 2.1%
- (7) わからない 3.6%
- (8) その他 3.2%
- ・日本人の意識改革(外国への偏見の解消等) 8件
- ・治安の悪化、犯罪内容の国際化など 5件 44件



問8 多文化共生社会を実現するために、どんな取組が大切か(3つまで選択)

- (1) 文化や生活習慣の相互理解の促進 53.7%
- (2) 日常的なあいさつなど積極的な声かけ 50.2%
- (3) 外国人県民との交流を目的としたイベントへの参加 40.2%
- (4) 地域住民との交流や地域活動への外国人県民の参加の呼びかけ 35.2%
- (5) 相互の言語の学習 32.1%
- (6) 差別意識をもたない 27.6%
- (7) 特にない 1.7%
- (8) わからない 1.4%
- (9) その他 2.9%
- ・外国人県民が日本の習慣・ルールにあわせるべき 7件
- ・子どもの頃から外国人・異文化に触れること 3件
- など 40件



問9 多文化共生社会を実現するために、今後、行政が重点的に取り組むべきことは何か(3つまで選択)

- (1) 外国人県民に対する日本語や日本文化の学習の支援 45.1%
- (2) 外国人県民に対する相談体制や多言語での情報提供 43.0%
- (3) 日本人県民と外国人県民双方に対する意識啓発 40.4%
- (4) 外国人留学生の受け入れや日本人の外国留学の促進 26.9%
- (5) 外国人県民を支援するボランティア、団体等の育成・支援 24.5%
- (6) 友好姉妹州省などの文化、青少年、スポーツなどの人的交流 23.4%
- (7) 外国人県民への教育、福祉、医療分野の施策の充実 21.8%
- (8) 特にない 2.0%
- (9) わからない 3.2%
- (10) その他 4.0%
- ・異文化交流できる場の提供 8件
- ・日本の習慣・ルールの周知 5件
- など 55件

